

芸陽

題字：本校書道教諭
坪井 宏(号 工鷹)先生書

3月11日(金)の東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害を受けられました皆様に心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

第25回在京芸陽観音同窓会のご案内

第25回在京芸陽観音同窓会を以下のとおり開催いたします。

記

日 時 平成23年10月15日(土)

11時30分 受付開始

12時00分 同窓会開会(挨拶・事業報告・懇親会)

場 所 パーティープラネット「銀座PPサロン」

〒104-0061 東京都中央区銀座5-9-13 菊正ビル9F

電話 03(3571)3298

アクセス 東京メトロ銀座線・銀座駅(徒歩3分)

東京メトロ日比谷線・銀座駅(徒歩3分)

都営浅草線・東銀座駅(徒歩5分)

JR有楽町駅(徒歩10分)

会 費

出欠の確定

6,000円

同封の郵便振替用紙による払込みにより出欠を

確定させていただきます。

なお、準備の都合上、払込み期限は9月30日(金)

とさせていただきます。

その他

また、払込み後10月7日(金)までに出席取り消

しをお申し出の場合、会費を返金いたします。

今回は、会費等の郵便振替用紙を広島二中卒の皆

様から広島観音高校31回卒の皆様まで、約600

名の方々にお送りしております。

皆様の周りに、振替用紙を受け取っていない方が

いらつしやれば、下記の榎野副会長、幹事までご

連絡ください。折り返し同用紙をお送りいたします。

クラスメイト、同期、部活の仲間をお誘いあわ

せの上ご出席ください。

在京芸陽観音同窓会

副会長 榎野弘一(広島観音6回)

TEL 03(3633)5899

E-mail: makino-k@ab.aunone-net.jp

第25回在京芸陽観音同窓会

幹事 清水暢之(広島観音17回 大塚組)

TEL 045(714)5941

E-mail: nobby432.507@nifty.com

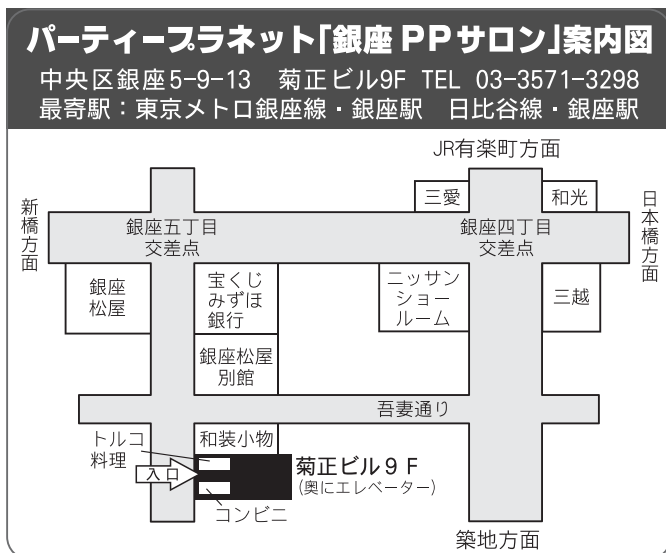
永山成一(広島観音17回 大塚組)

TEL 043(461)3470

E-mail: nagayama@mtg.biglobe.ne.jp

今城幸枝(旧姓繁村)

(広島観音17回 大塚組)



同窓会運営の裏話
— いわゆる「事業仕分け」副会長 榎野 弘二
(広島観音6回)

いきなり同窓会運営の裏話と言くと、どんな内容だと思いますか？

裏話とは、「そのことに関係のある表面に出ない話」とされているので、もしかして人のこと、お金のこともかもしれないなどと興味本位にもなり易い。

昨年4月、在京芸陽観音同窓会副会長に就任して以来、何となく心配していたのが、同窓会運営に必要な財務状況の動向であり、「同窓会運営に必要な資金は十分にあるのかどうか？」との問題意識であった。

それに呼応したのかどうかは別として、昨年の12月上旬、事務局の瀧山昇理事（広島観音9回）から同窓会の財務状況について「2010年度末

の収支残高と次期繰越金が減少する」との問題提起がなされた。そこで、今年1月から4月にかけて、私と松本正（広島二中22回）、瀧山昇、古田正雄（広島観音14回）、松本直和（広島観音20回）各理事とは今後の同窓会の財務対策を検討することにした。すなわち、民主党政府が展開した、いわゆる「事業仕分け」のようなミニ版を同窓会にも適用したのである。

確かに同窓会会員は、同窓会の収入や支出などの財務状況について、毎年開催の同窓会での事業報告においてしか、その動向を伺い知ることが出来ない。そこで、同窓会としての「事業仕分け」がどの様になされたのかのポイントを次のように整理して、同窓会会員の参考に供することにした。

特に3月から2010年度収支報告書（案）が纏まる四月にかけて、私や各理事によるメールでの意見交換や財務データ資料の確認などを続けた後、5月8日に理事会を開催して、同窓会の「事業仕分け」の結果を取りまとめた。なお、理事会会場は有楽町の喫茶店で経費も自己負担とし

て、支出減の第一歩を踏み出した。

収支残高や次期繰越金を増加させるには、単純には収入増の反面、支出減を図ることに尽きる。そこでまずチェックしたのは、支出減の徹底である。支出の大半は同窓会開催の関連費用と同窓会報印刷費なので、2011年度の同窓会開催の関連費用は参加者1人当たり五千円に抑える。

同窓会印刷費もページ数や発行部数を変えないで、前年度より約五万円の削減。そして打ち合わせ費用や雑費などで約七万円の削減などにより、支出は昨年度より約二十万円の大幅削減の予算案を打ち出した。

収入面については、同窓会参加会費は参加者一人当たり六千円とし、支出の同窓会開催の関連費用から千円の収入増を見込んだ。同窓会参加者は前年度に比べ、増加は少ないとして、収入増は期待薄としても、支出の大幅削減の効果は大きく、予算案として、2011年度の収支残高と次期繰越金は増加する見込みである。

なお、同窓会会報への広告掲載を実施したいとの提案は、

本年度の同窓会報に募集記事を掲載することにして、来年度からの広告掲載に期待することになった。また、寄付金の募集について、まず本年度のスタートとして理事会メンバーが寄付するとの提案は、理事会全員の賛同を得られず、また、寄付金への勧誘も進めないことにしたので、寄付金は賛同される有志の自発的な申し出に期待することになった。よって、同窓会会員のうち、広告並びに寄付金募集に賛同される方は、来年度からよりしく前向きなご協力をお願いする次第である。

同窓会運営にとって、新規の同窓会会員や同窓会参加者を増加させることは重要テーマである。同窓会会則第十三条によれば初年度維持会費三千円とあり、それでは新規の会員になる場合に負担が大きく、新規の加入を難しくさせている。そこで、来年度からは同窓会会則の改定を検討することにした。すなわち、初年度維持会費の名称を入会金に変更し、千円に引き下げ、また年維持費の名称を年会費に変更し千円に改定する案であり、本年度同窓会開催までに方針を決定する。

同窓会とは、同じ学び舎で学んだ者同士の卒業後の繋がりや絆を確かめ、交流を広げる場所や会合とされる。とはいえ、同期会には出席するが、同窓会には欠席する人も私の身近にいる。出席しない理由を聞くと、他の理由もあるにしても、この同窓会は「楽しくない」の一言。顔馴染みの同期会には満足しても、先輩や後輩との交流が期待される同窓会には期待していないようだ。こうした人には同窓会の意味合いをいくら説得しても仕方ないと考えているけれど、やはり、私は理事一同や毎年の担当幹事と協力しあつて、多くの同窓会員が年に一度の同窓会に積極的に参加され、楽しんでいただけるような同窓会の運営に努力すべきだと再認識した。今年で25回を迎える在京芸陽観音同窓会開催が盛況であろうことを期待して、昨年と同様に次のメッセージを残したい。「さあ、お互いに元気な姿や笑顔でお会いして、話し合いましょ。そして新たな人の群れを作りましょ。」



第24回在京芸陽観音同窓会開催のご報告

年当番幹事 片田 元己 (広島観音16回)

標記同窓会が広島二中、広島観音高の在京同窓生の参加を得て、平成22年10月23日(土)、品川プリンスホテルメインタワー38F「味街道五十三次」において盛会裡に開催されましたのでご報告いたします。

当日は気持ちのよい秋晴れとなり、一番乗りは理事の松本正先輩(二中22回)でした。そのお元氣ぶりは会においても遺憾なく発揮され、観音高が圧倒的となった現在、まだまだ二中は健在であることが窺われました。

当初出席の回答が少なく当番幹事としては心配でしたが、最終的には57名の方から出席のご返事をいただき、当日2名が欠席となりましたが、総勢55名(二中8名、観音47名)で24回目の在京同窓会を催すことができました。(50歳以上の関東四都県に在住の同窓生583人に開催案内を送付しています。)

会は、幹事役、片田の司会

で始まり、最初にこの一年の間に物故された4名の方々の御霊に黙祷を捧げた。この中には、在京同窓会の生みの親であり、事務局長、副会長としてここまで在京同窓会を育ててこられた奥窪五郎氏(二中21期)が含まれている。

開会の挨拶は、理事の松本先輩にお願いした。松本先輩は、厳しい中でやすらぎの一時、楽しめるのが同窓会である。奥窪さんが残されたこの在京同窓会は今や社会的財産であると述べられるとともに、二中から観音への継続に尽力されたことなどに触れられた。来年の在京同窓会は25回目となり、節目の年となる。会のさらなる発展・飛躍を祈りた

次いで事業報告に移り、今年の4月より副会長に就任された榎野弘二氏(観音6回)の挨拶、瀧山昇事務局長(観音9回)による会計・事業報告があった。本会会長の西亀達夫氏(二中6期)のご出席はかなわなかったが、ご健在で93歳になられたとのことであった。同窓会のHPに掲載されているデータから、2008年2月現在で、連絡のとれている方が一期では15名、二

期で18名ということがわかった。そのまま2年を足せば、今年でそれぞれ、101歳と100歳を迎えられることになり、100歳を超えられた先輩が30名以上もおられることになり、同窓会としては頼もしい限りである。

前副会長の山木和雄氏(観音3回)による乾杯に続き、会食懇談となった。3室の個室を繋いだ細長い会場であったこととテーブル席ということとで、参加者の皆さんに自由に移動し歓談していただけたこと、テーブル席は回期ごとにまとめることができ、じっくりと旧交を温めていただけたのではないかと思う。また、歓談に集中していただきたいということ、会食の間に余興などの催しは入れないことにした。食事はそれなりであったと思われるが、アルコールが十分でなかったよう

うで、幹事としては反省の余地が残された。さらに、細かい会場のため、昨年のような集合写真の撮影はかなわず、榎野先輩の腕を發揮していただく機会が持てなかったことは大変残念でした。宴も終盤となり、齋藤敏文氏(観音23回)から在京広島

第24回在京芸陽観音同窓会プログラム

日時 平成22年10月23日(土)

受付開始 11時30分

会場 品川プリンスホテル

メインタワー38階

「味街道 五十三次」

港区高輪4-10-30

開会 12時00分

司会 幹事 片田元己 (広島観音16回)

黙祷

開会挨拶 理事 松本 正 (広島二中22回)

事業報告 副会長 榎野弘二 (広島観音高6回)

理事 瀧山 昇 (広島観音高9回)

乾杯挨拶 前副会長 山木和雄 (広島観音高3回)

会食 懇談 校歌斉唱

エール交換 内富幸司 (広島観音高18回)

閉会挨拶 幹事 沖野正則 (広島観音高16回)

閉会 14時00分

県人会の紹介、広報担当理事の松本直和氏(観音20回)から在京同窓会誌について、長松宏氏(観音9回)、齋藤亮一氏(観音9回)の両先輩からの近況報告があり、その後校歌斉唱へと移った。まず、総勢8名による二中の校歌からであったが、8名とは思えない高らかな歌声で、まさに青春を謳歌されていた。観音高は、総勢47名で何とか二中の先輩達に対抗できたが、迫力と若さには劣っていたのではないかと思われた。ただ、観音高の校歌を高吟せよといわれても、あの旋律と歌詞では無理があるというものである。

最後の締めは、内富幸司氏(観音18回)によるエール交換であった。校歌斉唱で中学、高校時代に戻り、さらにエール交換により熱きものがこみ上げてきた。このエール交換は昨年からと聞いているが、来年以降も続けて欲しいものである。

閉会の挨拶は、沖野幹事役が事務局からの一本の手紙により今回の幹事団の結成に至ったことのエピソードを交えて閉会の挨拶を述べ、最後に三本締めで無事当番幹事の



「今年の「ネギの会」は数々の友を偲び追悼する会となった。総勢31名中、過半数以上の18名が各地から広島に参集した。悲しい中でもお互いの元気な顔を前にすると自然に生きる勇気が湧いてくる。思えば還暦・古希・喜寿と共に各地を旅した仲間でもある。次の到達点―88歳の米寿には、果たして何人が目的地に達せられることだろうか。

同期会を終えて

今田（山本）浩子
（広島観音16回）

この度は、私たち観音16回生が、第24回在京芸陽観音同窓会の年当番幹事ということので、平成22年10月23日に品川プリンスホテル・メインタワー38階（味街道五十三次）で在京の同窓会を開催いたしました。

その準備のため幹事4名が何度か集まるうちに、これを機に同窓会の後で、在京の16回生の同期会を計画しましょうという事になり、品川プリンスホテル内のカラオケルームを借りて同期会を開くことになりました。

在京の16回生としては、卒業後2回目という30年ぶりの

援があった。心配するなかれ！我々は元祖原爆の申し子だ。虚言を弄し延命を計る内憂外患のカイライ首相よ！原発の風評被害に踊らされ子供を庇護するバカ親よ！手袋片手にサミットなりアメリカへでも逃避してくれ！日本人としての底力があれば美しい自然が賛美できる80歳まで生きて見よ！



同期会となりました（私としては初めて、45年ぶりの参加）出席された方々にはすでに退職されて自由人とか、退職間際の方、現役でまだまだ忙しい方、頭の白い方などいろいろですが、すぐに高校生時代にタイムスリップして、和気あいあい楽しいひと時でした。私はいままで同窓会や同期会にはあまり関心は持っていませんでしたが、こうして仕事や子育てで多くの人生経験を積み重ねて、元気な顔で集っている同級生の皆さんを見ると、とてもうれしく元気が湧いてくるようで、同期会っていいものだなあとつくづく思いました。3時間くらいお話ししたり、唄ったりして、また来年も同窓会の後で

同期会を開きましよう、再会を約束して解散となりました。今回参加出来なかった方も是非次回は参加してください。

**「花萱蒲咲く
小石川後楽園を訪れて」
観音六回同期会開催**

「出席者」岡本正行、沖野正則、片田元己、十亀健一、土井泰秋、池田（古村）慶子、今田（山本）浩子、高木（高山）香代子、土屋（江口）千鶴、中村（成田）修子



観音6回同期会は毎年5月から6月の開催だが、今年は常連のメンバーのうち、女性一名が昨年末に逝去されたものの、女性一名が数年ぶりに参加したので、15名の出席者による小石川後楽園での庭園散策と庭園内にある「灌徳亭」の昼食などを楽しんだ。この庭園は水戸黄門ゆかりの大名庭園で国の特別史跡・特別名勝に指定され、都心部にありながら、池を囲んでの緑豊かなたたずまいは貴重である。

庭園散策は入口近くの枝垂れ桜の前からスタートし、桜並木、梅林、紅葉林を通り抜けて、色とりどりに咲き誇る約660株の花萱蒲や睡蓮などを鑑賞した。散策しながら近くの東京ドームや高層ビルなどの借景が目につき、また庭園内いたるところで修理中なのも残念であった。

「灌徳亭」での昼食では、
 尽きないよもやまの話や男性
 陣の「福島原発事故に伴う今
 後のエネルギー」といった議
 論も交わされて、大いに盛り
 上がりを見せた。自然エネル
 ギー推進派と原発推進・維持
 派に二分されたようだ。なお、
 この同期会に広島から参加し
 ている女性は、四国お遍路に
 参加したとのことで欠席なの
 で、彼女からの広島情報を聞
 くことが出来なかった。

ところで、来年から場所は
 幹事の選定に任せるものの、
 開催月日は事前に決めておこ
 うという提案があり、来年は
 5月19日（金）開催予定で了
 承され、最後に枝垂れ桜の前
 で記念撮影をした後に散会し
 た。

**観音20回 同期会
 「感謝遠暦の会」開催**

松本 直和（広島観音20回）

日時 平成22年11月27日（土）

17時～

場所 日比谷松本楼

町にはクリスマスイルミネ
 ションが灯る頃、会場のあ
 る日比谷公園にもイルミネー
 ションのクリスマスツリーが
 飾られ、緑あふれる森のレス

トラン日比谷松本楼に22人が
 集まりました。
 20回生は、10月末に広島リ
 ーガロイヤル（？）に多数集



まり大いに盛り上がりまし
 た。東京からも多くの方々が、遠
 い青春とノスタルジーを求め
 て参加されたそうです。
 その一カ月後に、今度は関

東在住者が中心にまた集まり
 卒業以来42年後に顔合わせが
 出来る幸せと元気を互いに祝
 いあいました。今回は、H組
 有若さんとI組羽場さんが、
 卒業以来初めて参加され、盛
 り上がりは益々エスカレート
 しました。二次会は、銀座コ
 リドー街へ繰り出し、人数が
 多い上に土曜日の夜で会場が
 なかなか見つからず、大きな
 カラオケボックスとなり、そ
 して三次会へ突入。今の還暦
 は、若くて体力があり、宵つ
 張りなことがよくわかりまし
 た。

参加者 田中義一、升田和一、
 小豆原博子（長久）、串山絹
 恵（三村）、藤原美岐子（土
 石川）、大歳文雄、栗栖正、
 松原邦雄、松本直和、升野和
 江（田村）、山田京子（徳永
 ）、倉成由美子（宮原）、岩
 瀬清子（山領）、斉藤登、猪
 原陽子（浜口）、有若正登、
 掛水通子（千葉）、横山貴美
 子（平野）、西本ひろ江（向
 井）、羽場博則、安岡千寿子
 （泉）、佐藤洋子（香川）

**◆「4半世紀を迎えた
 この素晴らしき集い」**

理事 松本 正（二中2期）

こんな話、何かで読んだこ
 とがある。若い記者が高名な
 教授に取材に行き、「私、先
 生の後輩です。同窓です。同
 窓？それがどうした！」一喝
 されて、後の言葉が続かなか
 なった……という。全く「同窓」
 なんて「それがどうした！」
 なんですナ。人間、同窓仲間
 と別に付き合わなくてもチャ
 ンと生きていける。むしろ、
 ガムシヤラに働いているさ中
 では、そんな付き合いが煩わ
 しい時期があつておかしくな
 い。同窓会の案内を出しても
 梨の礫が三分の一はあると覚
 悟しなきゃならん。そんな人
 たちから見ると同窓の集まり
 なんか「兎角メダカは群れた
 がる」と蔑視の対象となるの
 だろう。「古いことを懐かし
 がるより人生は前向きに生き
 るべきだ」と気張る人いるね。
 それも否定はせんけど、人生
 それだけでは今一つ寂しいん
 じゃござんせんか。

永い人生をマラソンに例え
 ると、走り続けてるうち、順
 位争いも結構だが、それだけ

じやないんじゃないかと思
 うようになるそうナ。私の場合、
 諦観、負け惜しみも含めて。
 生きて生かされている喜び
 を領ち合い、たった一度の人
 生の幅を拡げる・これが同窓
 会というものかと思ひます。
 蔑視する人は気の毒ながらこ
 の楽しみ、喜びを持ち合わせ
 ない。幸い広島二中、そして
 その伝統を引き継いだ広島観
 音高校の同窓生にはこの楽し
 み、喜びを持つ場所が首都圏
 にもあるのです。 その名は

【在京芸陽観音同窓会】
 昭和62年に東京大手町で12
 0名が旗揚げし、二中から観
 音高校に櫛をつないで、今年
 で満25年目を迎えた。四半世
 紀！「継続は力なり」 二中
 ↓芸陽高校まで体験した私は
 この同窓会で二中卒と観音高
 校卒の懸け橋を自任していま
 す。先年同窓会本部のある観
 音高校を訪ねたところ得体の
 知れない闖入者にも生徒が礼
 儀正しい。感動した！いい教
 育をしています。観音が後輩
 であることを中々認識できな
 い二中卒の諸兄方、その気持
 ちも解りますが、魅力的な素
 晴らしい弟妹がいること、こ
 れを知らない人人生勿体ない
 じゃありません？。観音高校

位争いも結構だが、それだけ

卒の諸兄諸姉、貴方がたは文武両道に秀でた(全員じやないヨ)広島二中の輝かしい伝統を引き継いでいる事に大きな誇りを持って下さい。

次世代に継承したい 原爆の悲劇

森政 忠雄(広島観音3回)

昭和27年卒業し、当時の日本勸業銀行に入行以来数多くの邂逅に恵まれたが、私が広島

島の被爆者であることを知る人は少ない。それもその筈、語れば阿鼻叫喚の地獄絵を思い出す、それに耐え難く話せなかつた。被爆59年目、小学校5年生の孫娘から、「広島の小学校時代、平和記念資料館で学んだ原爆のことを、夏休みの自由研究として、船橋の小学校の友達に教えてあげたい。爺ちゃんの被爆の話を詳しく聞かせて」と言ってきた。孫の頼みとなれば何はさしておき語るしかない。

「これで良い？」と送られてきた作文に「戦争の愚かさ、被爆のむごたらしさ、平和の尊さ」を的確に表現していることに感動した。これが転機となり「機会があれば語り継

がなければ」と、心境に変化が起きてきた。

被爆60周年の節目に母校の古田小学校から、当時6年生であった私に、地元の同級生を介して被爆体験の講演依頼が来た。満を持して「天命」と思い快諾！爾来2年間小学校で語り部を務めた。3年目に古田中学校からは非との要請があり、場所を替え「戦争の悲惨さと忌まわしい被爆体験」と題し、毎年話題を変えて約840名の生徒を前に昨年も語り継いできた。

一万メートルの上空から投下された重量約4トンの原爆、地上約600メートルで炸裂、熱線は地上で三千度〜四千度の爆風で家屋は倒壊全焼し、瞬時に約14万人の尊い命が奪われた。今に至るも後遺症に苦しむ人は数多い。平和記念資料館の前の平和大通りは建物疎開の跡地で、軍部から勤労奉仕を強制された、前途有為な男子、女子中学1〜2年生38校8300名の尊い命が奪われた、悲劇の現場であり、遺産であることも意外に知られていない。資料館に展示されている焼けた服は、363名の犠牲者を出した我らが学

び舎、二中の1年生であった古江出身の、故西本朝彦さんの遺物であることは大方の知る所である。毎年送られてくる生徒の感想文に感銘し、これからも要請があれば、時と場所を選ばず「平和の尊さ、命の大切さ。ノーモアヒロシマ」を次世代に語り続けたい。

今年6月29日(水)柏市中央公民館で生涯大学校柏南校友会様からお招きを頂いている。

惚け防止

矢澤朝乃(広島観音3回)

震災・原発事故等、不幸なニュースが限りなく続いていきます。この国難とも言わべき時に何も出来ない不甲斐なさをしみじみと感じる毎日です。

広島に育った者にとつて、原爆以上に恐ろしいものは無いと思つていたので、気軽に静岡の浜岡原発や新潟の柏崎刈羽原発にも見学に行きました。物々しい身体チェック等ありましたが、原発事故がこんなに恐ろしいものだとは全く思いも寄りませんでした。本格的な復旧復興は、専門

家や政治家・若者たちにお願いしましょう。

難しい事はさて置き呑気な私は、毎月始めと中旬に空白の升目とにらめっこをしています。升目が全部空白のまま黒枘も全部自分で考えるクロスワードも楽しみます。上下左右の関わりを推理しながら埋めて、完成したときには内心ほつとしています。電子辞書を片手に、古語・カタカナ語・熟語等、考えていると

時の過ぎるのを忘れず。暇さえあれば鉛筆を持ち、洗髪がすっかり乾き、零時になつたりで一冊出来るまで夢中で、日頃のお喋りは何処へやら、静かな我が家です。毎月2日に発売される「クロスワード・デイ」の全問正解者の中に毎回私の名前が出ています。虫眼鏡で見るとの小さい字ですが、元気で字が書ける間は、頭の運動だと思つて全問解けるまで頑張つていますが、惚け防止のために挑戦してみるのもいいものです。気持ちの上では後期高齢者とは思つていなくても体は受け入れなければならぬ状態になつてきた78歳の眩

きです。

『英語嫌いの英語習い』と『古語嫌いの古語習い』

平塚 功(広島観音3回)

畏友の山木君より、何か近況でも趣味でもよいから投稿するようにとの依頼があった。喜寿にもなつて恥ずかしくもあるが、英語嫌いななどの体験談を書いてみることにした。

さて、世の中には外山滋比古氏の『人生二毛作』論なるものがあり私も氏の講演を聞きに行ったことがある。しかし、同氏の様な学者・評論家・修辞学・文筆家を兼ねるエライ方ならともかく、名もなく貧しく……の私の人生にとつては『二毛作』論はまったく別の世界の話のように思えてならなかつた。

しかし、それとは別に自分としては苦手のものや慣れないものについて、退職後にもし余裕があれば『駄目モト』の精神で、何とかアプローチしてみたい。その一つがなぜか苦手の英語を再び習うことであり、もう一つは日本古典の原文に接し親しむことであつた。

まず、英語会話については、リスニングが大切だとよく言

われている。70歳台の我々の多くは一応読めて単語もある程度分かる。しかし会話ほどきないので、いわゆる『英語難民』と揶揄されているらしい。かく言う私も、中・高校から大学・企業勤務まで一貫して英語が嫌いで、その後も長年にわたり特に会話から契約文書に至るまで苦勞を続けコンプレックスに悩まされていた。

しかし、退職するとどう言う風の吹き回しか、なぜか英語が必要でもないのに少し勉強したいと思ったのは我ながら不思議であった。

そこで色々街の英会話スクールに通っては転校を繰り返して、現在では鎌倉で米国婦人に英語いや米語を、生徒の中の最長老？として習っている。さらに偶然にも生徒の中に観音高校に在籍した後輩の女性がいて、彼女の流暢な英語には感嘆し恥ずかしさも味わった。

もちろん、リスニングが不得意では会話上手になれる筈もないが、異国の言葉のニュアンスと日本語の感覚とは、到底一致しないことだけは実感できた。例えば、英語で月は単に『ムーン』の一言で済

ませるが、日本語では『有明の月』、『朧月』や『居待ちの月』等々辞書を見れば月日の月名を除いても数十は数えられよう。一方で和歌や俳句の『月』は英訳の際に形容詞を四苦八苦して使っても日本人の自然に対する観方や四季折々に感ずるセンスが、外国人に理解されるのは到底難しいのではないか。

話を戻して、米国人教師によれば、一口に英語といっても、その範囲内には米語あり、印度英語、豪州英語等『独自に発達した英語が80位はある』という。一方本場の英語を幾人もの英国人教師に習っているクラスメートの話では、彼らはいずれもプライドが高く米語的な発音や表現をすると徹底的に絞られるという。私も本当は古い方の日本人だから本場の英語を少しは習いたい気持ちは若干あるが、ここでは私の経験した例を挙げて説明したい。私は英米語とも『尊敬』を意味する言葉は『レスペクト』だと信じて、米国人男性教師に使ったが、米国人としては、この言葉は目上の人を使うのは失礼であり、その代わりに上を見上げるような意味で『ルックアップ

トゥ』を使うよう米人女教師に指摘され、仰天した。何故なら中学以来の私達の英語で『尊敬』は『レスペクト』と誰しも習ったはず。この点

について今般、小学校の二つの同期クラス会で友人達に尋ねたところ、米国でマイクロソフト等とビジネス折衝した友人は、やはり使うべきでないという。確かに伊藤哲哉著『英語のルール』では、『レスペクト』を留学生が米国でお世話になった教授との別れで使ったら失礼に当たると注意されたところ。しかし、懲り

ない私は、念のため本屋で十種類の英和の辞典を手当たり次第調べたが、両語が同意語であるとの説明以外には、注記・特記は無かった。もちろん英米語には名詞や動詞の相違とか意味やスペル違いは沢山あり、枚挙に暇が無いが、我々が中学で正しいと堅く信じていた『レスペクト』をお世辞のつもりで米人に使っても、お世辞にならずオカシナ不適當な英語として指摘されたのには心外であった。このこと以来、私は事あるごとに友人・知人達に見解を尋ねている。しかし、早い話がいちじがばんじこのちょうしでは、

高齢者の英語会話も先が思いやられて大変だ。

次に、あれほど苦手であった日本古文の方は、先ず更級日記・伊勢物語等の短い古典モノを基礎として講座で学び、2年前からハマッテイルの『源氏物語』の受講である。しかし、73歳の老教授によれば『講義年数は原文読みに加えて資料・解説等もあり、あと13年かかるよ』とおっしゃる。彼より年上の77歳の私と老教授が、ともに平均寿命を超えて、傘寿も過ぎ、講義終了まで果たしてたどり着けるのかとお互いに苦笑しあっている今日この頃である。やはり『習い事は早く始めるに越したことはない』というのが、後輩の方への老婆心からのアドバイスだ。

修学旅行事情

内富 幸司（広島観音18回）

昭和42年3月に卒業で、修学旅行はその前年の夏にありました。当時は、東京オリンピックが開催された後で、新幹線が東京―大阪間を走り、いよいよ日本が高度成長へと歩み始めた頃でした。修学旅行の行程は、普通夜行列車で

熱海で下車し、信州路、東京探訪、再び普通列車で帰広でした。決して快適とはいえませんが楽しい旅行でした。

信州路で一泊した時に、『湯けむり信州路の事件』がありました。悪友の数名が、女湯が見えた見えないで盛り上がり、当時としては刺激的な夜を過ごしました。

東京見学では、皇居、国立競技場などのオリンピック施設を回り、東京タワーにも行きました。東京タワーは、当時は有名なパワースポットでした。せっかく来たのだからと、友人3名とエレベーターを使わず、階段で第一展望台まで歩き登りました。還暦を過ぎた今では思いもつきませんが、無謀とも言えども妙な達成感がありました。展望台から観た眼下に広がる東京は、現在のようにはビルは乱立していませんでしたが、とにかく広い大都会でした。また、観光バスの車窓からのネオンの夜景は、印象的で驚かされたものでした。

卒業後は上京し40数年間生活しています。同期会や同窓会に出席し、年に数回皆様とお会いさせていただいていますが、多感な時代の思い出は、

今でも色あせることなく、すぐに戻り浸れる昨今です。最近では、来年完成予定の世界一高い電波塔・東京スカイツリーが、着々と建設されています。先の東日本大震災の復興の象徴として、これからも多くの人々へ勇気と希望を与えるパワースポットとして、新しい名所となることを祈願します。

人恋しさと同窓会 広島県人会

齋藤 敏文（広島観音23回）

私は観音第23期の卒業生で57歳。会社でも年次が近い先輩の退職・定年延長のお知らせが社内報にのる年である。人間誰しも仕事に子育てにがむしやらに走って生きている時は目の前の課題処理にアップアップで同窓会を顧みる気持ちがない。ところが定年が近づいてくると何故か人恋しさがわいて来て、当時青春を謳歌していた同窓生は今どうしているんだろうと無性に会いたくなってくるものである。

私もこのところ同窓会に顔



を出すようになった一人である。

顔を出して見てみると、やはり年配者がほとんどで若者や30代40代がいないのである。大学のクラブでエアエステ（国際学生技術研修協会）に所属していたので、その総会に出てやはり年配者が多く20代〜40代がごっそりいない（ただこちらは、その名のおり現役学生の参加は多い）。代々受け継がれていく組織なのだから満遍なく沢山の人が参加するようになればいいと思うのだが、どうも不参加の世代は人恋しさが足りないらしい。

私は森ビルに入社し上海に2つのビルを建設した際、1996年〜1999年と2005年〜2008年の2回現

地に赴任した。特に2回目は101階建、高さ492メートルのビルで軒高と展望台の高さ世界一ということもあり本場に沢山のひと知り合えた。ただ仕事上の付き合いにはどこか各々会社の（利益の）ため（業務上の必要性で付き合い）という下心が見え隠れするので仕事抜きでの裸の付き合いに発展することは少ない。そういう意味では本来付き合い始めた動機が不純なのである。

ビルが完成してから業務に時間的余裕が多少できたので上海広島県人会に出かけるようになった。こちらは広島県に縁のある上海駐在者のためのもので広島に少しでも縁があれば幅広く受け入れている。ということで企業の駐在員から裸一貫大陸で勝負を掛けている人まで実に個性溢れる人たちが集っていた。会の構成に上下関係は無く老若男女が気軽に参加できる雰囲気があった。ただ、上海広島県人会は自由ではあったが組織として統制されたものではなく、その後、私もすぐに帰任となったので上海広島県人会とは短い関係であった。

帰任後、上海の延長で私は

東京広島県会に入会した。こちらは会員総数3千人という大所帯であり春と秋の総会には広島県知事以下1千人を超える人が参加するという大組織である。趣味を追求するクラブもいろいろある。（興味のある方はホームページ <http://www.hiroken.gr.jp/> を参照下さい。）

そこで会員拡大委員となったこともあり、昨年末に会員募集の目的で母校でもないのにずうずうしくも基町高校の同窓会に出席させてもらった。

そこで驚いたのは会そのものが立食形式（移動自由）であり年配者といえども椅子に座ってゆっくり食事などしていない。大学生等の若手や20代〜40代の中堅どころも沢山出席していて、会場あちこちで名刺交換と歓談があり、同窓会自体も賑やかで若々しい空気に溢れていた。

参加者も100名程度（例年はもっと多いらしい）の盛況である。（若者が多いということは人恋しさが参加原因ではないのか）若手が多い理由を聞くと学生参加費は無料とのことだが、どうも学生は就職も意識した先輩訪問、現役世代は同窓生人脈作りに参

加の意義を見出しているらしい。

また現役の先生や往年の先生もわざわざ広島から駆けつけられていた。（恐らく先生の交通費は自腹か？）学生無料のために当然のことながら参加者の負担は重くなっているのだが、こうした負担を参加者が当然のこととして受容していた。

私が入学した昭和47年当時、は総合選抜制度があり基町高校も観音高校と偏差値は似たようなものであった。それが現在では残念ながら基町高校に随分差をつけられた。同窓会の進行でも駆けつけた先生から進学状況の報告がある等、参加者一人ひとりが基町高校卒を誇りに思っているようで、会場全体で同窓会を盛り立てたいという意識が強く感じられちよつと羨ましくもあった。

さてわれらが在京芸陽観音同窓会。諸先輩方が立ち上げ、まさにボランティア活動でいろいろな考えの人をまとめこまて持ってこられたその努力には頭が下がります。私のように歳をとってから人恋しただけで思いつきで参加し、同窓生の知り合いが居なけれ

ばもう来ないと考えること自体が却って世代を超えた同窓会を危うくし若者を遠のかせる原因かもしれません。今後この会が更に発展し若い世代に順調に受け継がれどの世代の在京同窓生にとつても生き生きとした世代を超えた心の母船のようになつていつて欲しいと心から願っています。

「言葉の力」

蔦村 三枝子
(広島観音23回)
観音高校23回卒業の蔦村三枝子です。

観音高校卒業と言うよりも観音高校演劇部卒業と言つてもいいくらい、演劇部の活動に夢中だった3年間で、そんな状況を見ていた担任の先生が演劇の道しかないと思つて下さったのか、先生の薦めもあつて演劇の道に進むことになりました。

現在は、劇団に籍を置き舞台俳優として公演活動を続けながら、朗読家として朗読会を開催したり、演劇ユニットでの演出、また、

朗読講師として教室を持ち、生徒さん達と一緒に朗読の楽しさ、おもしろさ、奥深さを感じています。

私のライフワークである、一人芝居「広島にチンチン電車の鐘が鳴る」は、2000年の初演以来毎年公演を続け今年で12年目になります。

演出の鷲田照幸さんも観音高校の卒業生です。

昭和20年、広電のチンチン電車の運転士をしていた女学生の姉と、電車好きの小学生の弟が主人公で、原爆で家族を失った少年に、被爆後わずか3日で動き出したチンチン電車が生きる希望を与えるというお話で、昨年は被爆65年の広島で公演を致しました。

今年、計画停電の影響などで、夏の公演はなかなか難しい状況ですが、たくさんの方から、こういう時だからこそ復興の芝居「チンチン電車」をやるべきでは、という言葉を頂き、何とか今年も公演を続けていきたいと思ひ、現在、会場探しなどに奔走しております。

3月の震災の後、たくさ

んの方達のご苦勞なさつているときに、芝居や朗読の会を催すのはどうなのか、自粛すべきではないかという声が出た。しかし、私たちが出来ることは何かと考えるとき、芝居や朗読の公演を通じて被災した方たち、また、日本中の方たちに元気になつて貰うことではないかと考えるようになりました。4月には、収益をすべて義援金とする事で、朗読会を開催致しました。

日本の美しい文章や懐かしい情景を、言葉の力で伝えていきたいという思いから、7月上旬には、フジテレビのアナウンサーの方達と劇団のコラボで、朗読ライブ「日本浪漫」に出演致しました。

7月下旬には東北出身の宮沢賢治の作品「銀河鉄道の夜」を朗読劇として上演し、8月以降も六本木ヒルズや学士会館などでの朗読会に出演致します。

ささやかな会ですが、言葉の力を信じて、おいで頂いた方々にあたたかい心の灯をともして頂けたらと思つております。



作品タイトル「夜の噴水」(東京丸の内) 榎野 弘二氏 撮影

当会副会長 榎野 弘二氏(広島観音6回)が、昨年の「平成百景写真コンテスト」(読売新聞社主催)に入選しました。

同作品は読売新聞社発行の写真集「平成百景 美し

い日本を残そう」(平成29年9月17日発売)に掲載されています。

全国規模のコンテストで東京都からの入賞者は10名だけです。右の写真がその入賞作品です。(モノクロですみません)

2010年芸陽観音ゴルフ会

世話役 山本 和雄
(広島観音3回)

第38回から第41回の4大会は女性パワーカーが全開、初の優勝者(宮川さん)まで記録される年となりました。唯一、ベテランの頑張りを示されたのが3回生の堂本氏、日頃のウォーキングトレーニングが実りました。

今や、台頭著しい若手軍団も既に60代に届くオジジとなり、当会としては新たなヤングパワーの注入が期待される昨今です。同期でお誘い合わせの上、ご参加ご一報をお待ちしています。最後に4大会のコンペ成績と、初優勝者2名のコメント、及び海外勤務から戻る参加、優勝を果たされた斉藤氏の談話を掲載します。

2010年度

(第38〜41回)

コンペ成績 (敬称略)

年月日・コース	優勝	2位	3位	ベストグロス
10.3.11 真名カントリー	宮川(観7)	久保田(観18)	掛水(観20)	森山(観20)
10.4.12 本厚木カントリー	吉田(観14)	森山(観20)	今本(観14)	森山(観20)
10.5.18 千葉カントリー 川間コース	堂本(観3)	三瀬(観6)	石丸(中22)	森山(観20)
10.10.8 袖ヶ浦カントリー 新袖コース	斉藤(観20)	久保田(観18)	今本(観14)	今本(観14)



宮川 京子 (広島観音7回)

暑くもなく寒くもない絶

好のゴルフ日和で、優しい男性陣の中でプレーできました。

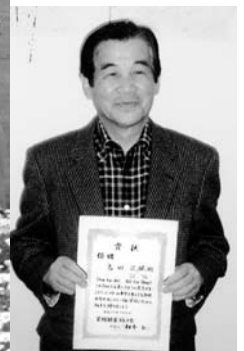
十数年前にゴルフをやめておりましたが同窓会の幹事の折、お世話くださっている山本さんに誘って頂き、恐る恐る再開致しました。デビュー戦は散々で一緒にラウンドした方々にご迷惑をおかけしましたが、その後勇気を出して出場してよかったです。ありがとうございます。



斉藤 登 (広島観音20回)

仕事の関係で年に一度の参加で優勝は思いも掛けないものでした。6月の久しぶりのラウンドの時に、何となくショットが良くなってきたかなと思っていて、それがグリーンに相性が良かったのか、パットにも助けられま

した。偶々同期の面々とのラウンドで力が入らなくゴルフが楽しめたのが優勝に繋がったのでしょうか。有難うございました。





ゴルフフリー交遊録

堂本 一男 (広島観音3回)

昨年、喜寿を向かえ、またゴルフというスポーツに接して53年になったので、ゴルフ大好きな人間として私のゴルフ歴について述べてみたいと思う。そもそもゴルフクラブを初めてみたのは、勤務先の日本興業銀行秘書室在任時で、ゴルフは沢山の道具で、硬い小さなボールを打つことを知りました。そして、それを自分自身が経験する日が、意外と早くやってきたのです。昭和35年に融資第二部第一課へ異動になったのがきっかけです。第一課の担当業務は、自動車・私鉄・運輸といった先で、特に私鉄は沿線開発の一環として、ゴルフ場を運営していた。そういった環境なので、係員クラスでもゴルフを始めていたせいか、課内のゴルフ会がよく行われていた。そこでお前もやれ、ということではじめたもので、京成藤ヶ谷CCが始めてのコースです。この初ゴルフでとんでもない事件を起こしてしまいました。その後で申し述べます。初めてのゴルフで感じたことは、どれ

一つとして同じ条件上にボールがなく、止まっている球を打つのが大変難しかったことです。もともと私の本業は硬式テニスで、当時は興銀テニス部のナンバワウン、土・日は殆どテニスコートで過ごし、インターバンク戦に備えよく練習をしておりました。因みにテニスは観音で始め3年生時には、故大橋 晃一君(朝日生命)と広島県の単・複のタイトルを殆ど取っておりました。テニスは、動いて回転のあるボールを打ち返します。練習場のゴルフしか知らず初登場した京成藤ヶ谷は、走り回る散々の一日でした。その後もテニスが主のスタイルは変わらず、接待と遊びのゴルフでした。結局テニスをやめゴルフ一本になったのは、50歳位からでその後興銀退職を機に、友人と競技志向のゴルフをやろうと、三島SCCに入会しましたが、若い時に基礎づくりをしつかりやっていたので、ハンドレイは14どまり、目標のシングル入りは無理でした。それでも月例競技で60歳時、一度優勝することができたし、ほぼ毎年シニア選手権決勝ラウンドに残りマッチプレーも経験しまし

た。

次にショートホールでの珍しい出来事を披露させて頂くことにしましょう。

第一は、既述の通り、京成藤ヶ谷CCのショートホール第一打はスライスで右の林に入りOB、お客様打ち直しをどうぞの声で、第三打これがホール手前から、スルスルと転がりカップイン。みんな言葉で、誰かがホールインスリーと云ったので、スコアカードに3と書いた。後でクラブに、こんな場合お祝いがあるのか聞いてくれたが、それはありません、しかし大変珍しいことですね、聞いたことがありませんとのこと、考えてみればホールインワンより難しいですね。

第二は、 HALF 連続ホールインワンである。時は平成4年8月9日、軽井沢72西レットコース10番145ヤードを6番で、次いで13番113ヤードを8番でホールイン、10番で初めてホールインワンを達成し、一度は本物をやってみたくて思っていたので、正直ついにやったか!と大変嬉しかった。13番の連続ホールインワンには、私も仲間もびっくり唾然としてました。

更に大騒ぎになったのは16番142ヤードのショートコースを迎えたときです、入れば三連続となる超大記録である。まさか入ることは・・・チョ口は様にならんと頭の中は大混乱の中、ティグラウンドに立つ、じっとピンを見つめ打った球は、見事ピン横五メートルにワンオン、2パットのパーで上がり面目を保つ、ヤレヤレと胸を撫で下ろしたものである。トータルスコアは42・36の78で出色の出来栄えでした。この事は、ゴルフダイジェストの平成4年11月の特集記事「神がかりショットをやったのけた男たち」に紹介されました。

現在健康上、いい季節にかコースに出られませんので、実践不足が悩みです。今後①健康維持のためのゴルフ②100は叩かないゴルフ(ボギーオン厳守、2パット)を志します。

芸陽観音ゴルフ会も第50回が、見えてきました、心おきなく楽しい会ですので元気で参加し、上位を狙いたいと思っております。

次回は、高橋 滋さん(広島観音6回)にバトンタッチします。どうぞ宜しく。

維持会費納入について 事務局からのお願い

会則により会員各位は、入会時には初期会費として3,000円を、その後は翌年度以降、毎年維持会費として1,000円を納めて頂くことになっています。

恐れ入りますが、既に初期会費を納入済みの方で、平成21年度以降の維持会費を未納の方は、3年分の3,000円を、22年度以降、維持会費を未納の方は2年分の2,000円を、お納めくださいますようお願い致します。

各位の会費納入状況にあわせて振込取扱票を同封しましたが、もし納入状況と異なる振込取扱票が入っていましたら、事務局までご連絡下さい。

事務局 瀧山 昇

電話：045-983-5992

在京芸陽観音同窓会 2009年度決算報告書 (単位：円) 2010年3月31日

前年度繰越 379,938

収入の部

総会会費	474,000	79名分
初年度維持会会費	69,000	23名
年維持会費	150,000	1年分、150名
	44,000	2年分、22名
	57,000	3年分、19名
利息	1	
計	794,001	

支出の部

総会関連費用	439,650	
会報印刷費	170,940	
振替手数料	30,560	
打合せ費用	42,000	
払い戻し	18,000	
その他	66,632	(注)
計	767,782	

次期繰越金 406,157 (前年度)
(379,938)

内訳	普通預金	2,246	(2,245)
	振替口座	350,510	(359,470)
	現金	53,401	(18,223)

(注)その他

郵送費	51,300
用紙・コピー代	2,500
写真代、謝礼他	11,032
振替用紙印刷代	1,800
計	66,632

以上 相違ありません。

観音9回卒幹事

渡部 亮



(敬称略)

平成22年度維持会費納入者

二中 東京都

回 氏 名

- 12 伊藤 得平
- 15 田中 正己
- 15 中尾 博邦
- 17 胡子 英幸
- 17 川崎 利秋
- 18 三宅 紳童
- 20 武田 晴児
- 20 榎田 辰昭
- 21 小田 盛斗
- 22 末岡 恒美
- 22 宅明 香澄
- 22 湊 徳夫
- 22 行年 恒雄
- 23 伊藤 司
- 23 平本 善一
- 25 濱岡 平一

二中 神奈川県

- 21 北村 裕昭
- 21 塚川 知
- 22 上杉 襄一
- 22 亀井 賢伍
- 22 松本 正
- 23 中神 義三

二中 千葉県

- 22 石丸 恵照
- 22 千代原 邦生

二中 埼玉県

- 13 植花 武
- 20 牧尾 良典
- 23 重見 三士
- 25 佐々木 義隆

二中 他 県

- 22 山田 康彦

観音 東京都

回 氏 名

- 3 矢沢 朝乃
- 3 榎田 美保子
- 3 蒔田 尚昊
- 3 磯崎 英子
- 3 眼籠 朋子
- 3 大谷 未子
- 3 竹本 すみ子
- 3 山木 和雄
- 3 高田 昭一郎
- 3 山本 剛也
- 4 桜井 弘子
- 5 吉良 正志
- 6 今坂 譲
- 6 榎野 弘二
- 6 田中 千鶴子
- 6 織田 好江
- 7 河西 寿子
- 7 齋木 勝司
- 9 百武 妙子
- 10 三原 孝彦
- 10 福尾 政道
- 11 岩崎 格
- 11 浮田 萌男
- 11 山岡 義典
- 11 杉中 浩一郎
- 11 中村 洋一郎
- 12 堂免 清美
- 13 谷本 多徳
- 13 岩崎 千鶴子
- 13 土居 将憲
- 14 森 勝和
- 15 新谷 恵彦
- 15 有田 進治
- 15 西山 史朗
- 16 片田 元己
- 16 野村 昌弘
- 16 今田 浩子
- 18 長谷川 美弥子
- 20 田中 義一
- 20 小豆原 博子
- 20 串山 絹恵
- 20 栗栖 正
- 20 松本 直和
- 20 中村 敏樹
- 20 山本 由美子
- 20 小林 剛

観音 東京都

回 氏 名

- 20 斉藤 登
- 20 森山 康三
- 20 掛水 通子
- 20 安岡 千寿子
- 20 大歳 文雄
- 22 田中 光晴
- 23 千川 一司
- 23 齋藤 敏文
- 24 太田 信三
- 25 国行 薫
- 25 藤井 高文
- 25 吉岡 豊
- 26 藤近 直也
- 31 三谷 啓子

観音 神奈川県

- 1 國廣 寛子
- 2 宅明 多聞
- 3 山本 豊子
- 3 平塚 功
- 3 堂元 一男
- 3 森政 忠雄
- 4 橋本 三千司
- 4 六岡 翠
- 5 清水 幸浩
- 6 三瀬 和夫
- 6 中原 壽子
- 6 平田 博義
- 7 小川 慧子
- 7 金井 千喜
- 7 柳田 陽子
- 7 寺本 昇
- 8 宇都宮 浩三
- 8 山田 明
- 9 中原 慈枝
- 9 越間 建二
- 9 瀧山 昇
- 9 山野 真純
- 9 渡部 亮一
- 10 山根 華子
- 10 平賀 源太郎
- 10 高木 明子
- 11 松田 孝子
- 11 本多 孝太郎
- 11 森脇 峻一郎

観音 神奈川県

回 氏 名

- 13 小林 信博
- 13 山野 日出子
- 14 中崎 舒弘
- 14 三宅 洋
- 14 児玉 通子
- 14 古田 正雄
- 14 佐伯 陽子
- 15 小脇 敏子
- 16 沖野 正則
- 19 中尾 真澄
- 19 安達 栄治郎
- 19 永田 洋水
- 20 升田 和一
- 20 高橋 昭子
- 20 松原 邦雄
- 20 岩瀬 清子
- 20 竹森 裕子
- 20 志和木 薫
- 23 山田 弘治
- 24 高宗 貴子
- 26 斉藤 充子
- 26 中村 能章

観音 埼玉県

- 6 浜田 光江
- 6 藤田 尚美
- 7 高木 貞直
- 7 中野 春美
- 11 武藤 達
- 11 後藤 幸子
- 11 田中 秀穂
- 13 杉本 俣男
- 13 佐伯 紗代
- 14 佐伯 博行
- 15 奈良原 章子
- 18 久保田 裕二
- 18 内富 幸司
- 20 富岡 和隆
- 20 藤原 美岐子
- 20 升野 和江
- 20 倉成 由美子
- 20 猪原 陽子
- 22 福田 みどり
- 24 北島 忠晴

観音 千葉県

回 氏 名

- 3 伊藤 俊彦
- 4 安藤 幸代
- 6 村上 光子
- 7 宮川 京子
- 9 藤田 洋子
- 9 渡辺 敏章
- 9 立川 妙子
- 9 仁賀木 寿子
- 9 丹下 容子
- 10 井上 佳子
- 10 岡寄 巖
- 11 木場 照美
- 11 世良 宣義
- 12 島田 拓史
- 13 丸子 隆志
- 14 今本 智行
- 16 土井 泰秋
- 17 中田 君子
- 17 香藤 繁常
- 18 和田 真
- 18 大中 進
- 20 山下 絹代
- 20 伊藤 清登
- 20 石田 由子
- 23 小川 幸枝
- 23 阪井 忠義
- 23 脇田 直
- 24 入矢 桂史郎
- 25 江口 英則

観音 他 県

- 9 長松 宏
- 10 坂口 典子
- 14 藤谷 十一

(敬称略)

平成22年度初期会費納入者

観音 東京都

回 氏 名

- 14 梶谷 久美子
- 16 浅井 慶子
- 16 熊田 一義
- 16 土屋 千鶴
- 16 大城 守雄
- 16 高木 香代子
- 20 佐藤 洋子

- 30 榎原 政博
- 30 小林 史子

観音 埼玉県

回 氏 名

- 6 田附 秀子
- 16 池田 慶子
- 18 清水 純

観音 神奈川県

回 氏 名

- 16 和田 穰二
- 16 岡本 正行
- 16 十亀 健一
- 17 清水 暢之
- 20 羽場 博則

観音 千葉県

回 氏 名

- 16 中村 修子
- 17 永山 成一
- 25 延近 保生
- 27 井上 由理

二 中

- 22 松本 正

観 音

- 11 山岡 義典
- 20 大歳 文雄
- 20 小豆原 博子
- 26 中村 能章

※以上、213名の皆様、ご支援有難うございました。

平成23年3月末日現在

◆編集後記◆

松本 直和
(広島観音20回)

3月11日(金)の東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害を受けられました皆様に心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

この文章を何回読んだことだろう。また本誌が皆様のお手元に届く頃には、復興の響きが少しでも大きくなっていて、また放射能被害が少しでも治まっていること期待せずにはられない。

今年、去年から継続する民主党のマニユフェスト修正への野党の攻撃、大相撲の八百長問題、2月22日ニュージラランド地震、面白い話題は、英国ロイヤルウェディングぐらいで、福島の事故で本紙の森政先輩の投稿にあるように、放射能の恐ろしさと命の尊さを再認

識した次第です。それにして民の竈を心配された大昔の天皇様に比べ、民を更には被災者を見ず、政局に労力を費やす政治屋に、わが国の民主主義のあり方と、回転ドアの様に次々変わる首相交代は政党政治の行き詰まりと不満を感じます。またこれらを見ていることしかできない事を歯がゆく思います。結局は復興も経済立て直しも、政策に頼らず民の力でできることを、やっつけていくしかないのでしょうか。

そうはいっても時は平等に過ぎ、今回も10月の在京芸陽会同窓会の案内と共に会報を発行し、首都圏の同窓の皆様のお元気な様子をお伝えできることは、ある種の幸福であると思います。二中先輩の同期会報告をはじめ諸先輩方のお元気な様子を投稿いただき、ご協力に厚く御礼申し上げます。そして10月の同窓会に皆さんが多数ご参加いただけるようお願いいたします。

広告掲載のご案内

このたび在京芸陽会会報誌に、企業、グループ、個人の広告掲載をお願いすることにしました。

掲載料は、一広告一万円～でお願いいたします。

ご協力いただける方は、当会理事までご連絡ください。